

2015 伊野地区自治協会

活動方針と重点的取組課題

伊野地区をめぐる現状と課題

1 人口減少

この5年間で人口が100人減り、現在の伊野地区人口は約1,360人。高齢化率は31%。65歳以上の一人暮らし世帯数は45。島根県中山間地域研究センターは2040年の伊野地区人口を850人、高齢化率40%と推計している。

2 農業・漁業等第1次産業の課題

担い手不足が深刻な状況にある。2013年度に出雲市が実施した農業アンケート結果を見ると、伊野地区の農業者のうち離農希望者が28%、規模を縮小したいと考える人が25%となっている。

3 伊野小学校の存続に伴う課題

伊野小学校を存続させるということになったが、小規模校の強みをいかした教育や子育て環境の整備を進める必要がある。

4 住民の命と財産を守るインフラ整備

災害時の避難道路等道路環境の整備が遅れている。防災・減災対策を強化する必要がある。

5 伊野の強み・持ち味をいかした地域づくり

伊野バージョンや伊野いちなど新しい流れが起きている。さらに多くの人たちが地域の課題を共有し、取組を進めることが求められている。

活動の重点

1 「ふるさと創生」の推進体制をつくる

- (1) まちづくりを推進する委員会を立ちあげる。
- (2) 各団体が「持続可能な伊野づくり」を視野に入れた取組を行う
- (3) 自治協会・町内会・各種団体の組織のありようについて検討を行う
 - ①自治協会役員選出の方法と課題について検討する
 - ②各団体の課題と解決の展望について検討を行う
- (4) まちづくり懇談会開催

伊野地区の「ふるさと創生」について市の幹部職員を招いて検討会を開催する

2 伊野の教育魅力化

(1) 伊野小学校支援

伊野小学校存続に伴う諸課題に取り組むため PTA や地域学校運営理事会との連携を強化する。

(2) 伊野バージョン支援

- ①基地づくり

- ②学生と地域住民との交流
- 3 命と安全を守るまちづくり
 - (1) 防災・減災対策
 - ①原子力災害対応
伊野独自の訓練を実施する。
 - ②土砂災害対応
 - (2) ファースト・レスポnder制度導入
各町内で AED 講習会を開催するとともに、組織を立ちあげる。
 - (3) 防災・減災のための情報インフラ整備
平田 CATV の支援を得て携帯電話やスマートフォンを活用した情報発信・情報収集のシステムを研究する。
- 4 農業振興
 - (1) 伊野いちの発展
 - (2) 農業研究
伊野の農業課題に取り組むため、農業懇話会を開催し対策を検討する。
- 5 インフラ整備
 - (1) 伊野の道路整備事業を推進する体制を確立する。
 - (2) 伊野川井堰改修
- 6 福祉のまちづくり
第3次福祉計画策定事業で明らかになった諸課題について具体的な取組を開始する。
- 7 にぎわい創出・交流人口拡大・定住促進
 - (1) ほたるの里を活用した交流人口拡大
 - (2) 国際交流
国際ワークキャンプを28年度に迎え入れる準備を進める。
 - (3) SNS活用による伊野の魅力発信
ホームページ等、SNS 活用による伊野の情報発信システムを整える。
 - (4) UI ターン者受入事業
地区外に住む伊野地区出身者への情報発信や空き家活用による I ターン者受け入れを進める。
- 8 財政見直し
会費収入が減少し続ける自治協会財政の見直しを図る。